

Stereo

オーディオの総合月刊誌 ステレオ

2015
October

10

特集 小音量で楽しむスピーカー選び

小音量でも凄い!使いこなしの極意紹介

特別企画 実力派ブリティッシュスピーカー聴き比べ

- 葉葉のオーディオ散歩・昭和歌謡ポップスシングル盤聴きまくり
TAD開発者インタビュー

ADVANCED
Ultra High Current MOS
SINGLE PUSH-PULL CIRCUIT

VOLUME



Gクラスアンプを メインとする 高機能でデザイン性豊かな組み合わせ

FMチューナー、フォノ、ブルートゥース機能が付加できる
プリ・メインアンプと、マッチするDAC/CDプレーヤーが登場

文・須藤一郎 *Ichiro Sudo*

Photo ● Y.Kawamura

Evolution100A



Evolution50CD



Evolutionシリーズはクリークブランドの最もポピュラーなモデルとして、ハイクオリティを追求して開発されたディステイニシシリーズのデザインを踏襲し、ローコストハイパフォーマンスという社是を継承した最新鋭モデルである。クリーク社のプロフィールに「マイク・クリークが、CREEK Audio Ltd を設立し製品の第一弾である4040・プリ・メインアンプを発表したのが1981年。その時、彼は自分の製品に対する位置づけを「ローコスト・ハイパフォーマンス」としました」とある。彼の作る製品群には「何百万円もするような高価な製品はありませんが、出力からは考えられないドライブ能力を有し、さらにCREEKでしか味わえない聴き疲れのないナチュラルサウンドを奏でます」そして「スペック、データを追い求めて作られるオーディオ機器とは、ひと味違う独自の世界を堪能することができます」とも紹介されている。Evolutionシリーズは、クリークの原点である40シリーズの再来として、高いコストパフォーマンスを追求し誕生した、エントリーレベルのニューシリーズなのである。

スリムでシンプルな
デザインで出力を
倍増させたGクラス回路

Evolution 100Aは同50Aの上位機としてラインナップされたニューモデルである。スリムなデザインをそのままに定格出力を倍増することを可能にした背景にはクラスGサーキットを採用したパワーアンプの技術がある。G級アンプの動作は、A B級アンプに相似するものの、複数の電源電圧を使用して、低出力時には低い電源電圧を、高出力時には高い電源電圧を使用するという仕組みになっている。信号レベルに応じて自動的に必要とされる電源電圧が選ばれるという方式である。Evolution 100Aに搭載したパワーアンプは、低出力時と高出力時に対応した低い電源電圧と高い電源電圧とを自動選択することにより、必要とされる出力が得られるように設計されている。パワーアンプの出力レベルが、8Ω負荷において、25Wまでは低い電源電圧による動作となり、25Wを超え110Wに至る高出力には、高い電源電圧に自動切り換えして対応するというシステムである。

Evolution 100Aの

EVOLUTION 100A

プリ・メインアンプ | ¥370,000

EVOLUTION 50CD

DAC / CDプレーヤー | ¥189,000

Creek

spec

[EVOLUTION 100A]

出力 ● 110W / 8Ω / 2ch

最大供給電流 ● ±26A / 0.5Ω THD ● <0.002% 8Ω

周波数特性 ● 10Hz ~ 100kHz ±2dB / Line

10Hz ~ 50kHz ±2dB / Blanced

利得 ● x46 (33.3dB) / Line, x22.5 (27.0dB)

プリ部入力 ● 5×RCA

パワー部入力 ● 1×RCA or 1×XLR選択

SN比 ● >102dB 重量 ● 9kg

外形寸法 ● W430×D280×H60mm

[EVOLUTION 50CD]

デジタル入力 ● 2×SPDIF / 24Bit 192kHz

2×Toslink / 24Bit 192kHz

1×USB / 24Bit 96kHz

出力インピーダンス ● 47Ω SN比 ● >-110dB

メカ ● CD slot-loader

DAC ● 24bit 192kHz 2×Wolfson WM8742 重量 ● 5.5kg

外形寸法 ● W430×H60×D280mm

問い合わせ先 ●

(株)ハイ・ファイ・ジャパン Tel.03-3288-5231

フロントパネル中央部にOLED (Organic Light Emitting Diode) 採用のディスプレイ、その左右に4個ずつ計8個配置されたボタンは、オプシヨンのラジオチューナーやDACなどを含む構成に対応して動作する。オプシヨンの機能に応じてボタンを稼働させるというシステムである。オプシヨンは、アナログレコード再生用のイコライザーモジュール Sequel 2、FM / AMチューナーモジュール AMBIT、DAC / Bluetooth / FMチューナー

モジュール RUBYなどが用意されている。6系統のアナログ入力は、1系統がXLRのバランス、5系統がRCAのアンバランスとなっているが、RCAの1系統はパワーアンプに直結するAVダイレクト機能に設定することができる。

スマートなボディに
秘められた
CD再生能力と
ハイエンドDAC機能

Evolution 50CDは、プリ・メインアンプ Evolution 100Aあるいは50AにベアマッチデザインさせたCD / DACプレーヤーとして、プロフィールには「CDトランスポート内蔵のハイエンドDAC」と紹介されている。スペックシートでも、CDを含む6系統のデジタル入力、2系統のデジタル出力、RCAアンバランスとXLRバランスのアナログ出力を装備するとあり、内蔵CDトランスポートからの出力はデジタル入力のひとつであるとして、ハイエンドDAC機能をプロモートしている。フロントパネルの中央部にOLED

Dを採用したディスプレイ、その左側に5個、右側に4個配置されたボタンは、ソフトタッチの仕様でバックライトには白色のLEDが採用されている。フロントパネル左側に配置されたスロットローディングのCDトランスポートをコントロールするファンクションは、左側に配置された5ボタンで操作する。DACへの入力や表示機能などの設定は、右側に配置された4ボタンで行う。リアパネルのデジタル入力端子には、24ビット/192kHz対応SPDIFとToslinkをそれぞれ2系統、24ビット/96kHz対応USBを1系統、デジタル出力端子には、SPDIFとToslinkがそれぞれ1系統配備されている。

ハイエンドDACをプロモートするDACコンバーターには、Wolfsonの24ビット/192kHzのDAC IC WM8742を2基搭載して、ダブルデифアレンシャルのモードで動作させている。電源回路には、アナログとデジタルの回路に分離した巻線を採用したトロイダルトランスをはじめ、マルチプル低インピーダンス電源キャパシター、有機ポリマーキャパシター、ハイグレードなWIMAポリプロピレンキャ



Evolution100Aのリアパネル



Evolution50CDのリアパネル

試聴ソフト

- ▶『Angels & Shepherds』
Channel Classics/CCS15198
- ▶『Claire Martin A Modern Art』
LINN/AKD340
- ▶『Stravinsky The Rite of Spring』
EXTON/OVGL00416
- ▶『Joseph Lin Bach & Ysaye II』
N&F/NF53002
- ▶『Art Blakey and the Jazz Messengers』
Esoteric/ESSB90126

パシターなどの高品位なパーツが採用されている。

ダイナミックレンジ 鮮やかな躍動感 Gクラスならでのもの

Evolution 100Aが再現するサウンドステージには、エネルギー密度の濃い音場の展開と、しなやかでも艶つぼさを秘めた響きに縁取られた音像の骨太な定位感がある。クラスGのなせる技であろうか、ダイナミックレンジの鮮やかな躍動感をも肉づきよく体感することができ。Evolution 100Aキャビネットのクールな肌触りが、余裕の雰囲気を出してくる。

声楽などのさわやかな佇まいをイメージするステージでは、抜けのよい響きの拡散が美しく、人肌の温もりを秘めた表情の臨場感を味わうことができる。肉づきのよい緻密な質感も印象的である。ジャズボーカルなどでは生々しさの密度も濃厚で実に楽しい。豪快さを秘めた肉厚な臨場感も心地よい。オーケストラなどの勇壮なステージでは、重厚さと解像度感がバランスよく迫ってくる。弦楽器の粘りを秘めた爽快な響きも

緻密で美しい。

骨格の確かさと 魅力のCDプレーヤー

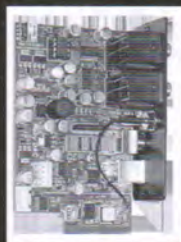
Evolution 50CDが再現するサウンドステージには、開放感に優れた音場の展開を背景にして、Evolution 100Aの質感を彷彿とさせるかのエネルギー密度の濃さや、しなやかさと艶つぼさの雰囲気融合したサウンドイメージが、明瞭に定位する。声楽などの佇まいには抜けのよい響きの美しさと素朴さの表情が重畳する。ジャズボーカルの適度に艶つぼく適度に豪快で、肉感的な臨場感も過不足なく再現してくれる。ハスキーさの雰囲気も十分に生々しい。

オーケストラの勇壮なステージには、迫力の重厚さと明快な解像度の融合を聴くことができる。響きの濃度の濃さも充分である。弦楽器の繊細な響きの拡散には、骨格の確かさと、しなやかな質感が重畳して美しい。テナーサクソスの渋い響きの美音をリアルに再現してくれるさまざまに心地よい。

CREEK

EVOLUTION 50A + RUBY DAC ¥284,000/税別

4系統のデジタル機器との接続用として、光、同軸、USB、Bluetooth入力を装備し、さらにFM RDSに対応した、チューナーも搭載したモデル
■出力: 59W/8Ω, 2ch, 85W/4Ω, 2ch/270dB ■入力感度: 410mV ■リニア入力: 5 x RCA ■FM入力: 1 x RCA or 1 x XLR 選択 ■フロッピー: -80dB/1kHz ■S/N: >102dB ■寸法: W430 x D280 x H60mm ■重量: 7.5kg
■デジタル入力: 2 x 光/TOSLINK 24bit, 192kHz, 2 x 同軸/S/PDIF 24bit, 192kHz, 1 x USB/Class 1 x 24bit, 96kHz, 1 x Bluetooth ■DAC: Wolfson WM8742 24bit, 192kHz ■FMチューナー: 周波数/76 - 108 MHz (VCO設定変更)



hifijapan.co.jp / 03-3288-5231

MAJIK、TUKANという入門コースをサブ・オーディオとして入手した。恋女房がいるのに何故か外に女性を作ってしまう。そんなあの種の男の性に近い気分でLINNとの交際はスタートした。不倫はしたが本妻JBLへの愛は変わらず、Everest DD 66000が登場するとすぐに試聴し、すごいスピーカーだと思ったが、パラゴンやK2に比べて味が違う。老舗の蕎麦屋が代わりして店もきれいになったし、巷の評判も良いけど古くからの客である自分としてはどこか先代の味を求めている、そんな気分だ。また、このまま一生JBLというのも何だなあという気もして来た。ハイレゾ時

代も近づいていた。

JBLとは一時別れる。LINNの最高級システムなら別の人生を過ごせるのかも知れない。1年かけてこの結論に至り、我が家にARTIKULAT 350スピーカー、KLIMAXのプリ、CDプレイヤー、CHAKRAのパワーが2台やって来た。そしてハイレゾ時代の本格的な到来。2015年、LINN EXAKT 350システムを導入。現在は、KLIMAX EXAKTでハイレゾ音源、KLIMAX KONTROLをセレクター代わりにし、CD、アナログを聴いている。ちなみにアナログはSP10MK3、ダイナベクターのアーム、カートリッ

ジはオルトフォンのSPUシリーズを何種類か使用している。

すべてを公平に再生する リンだけしか出せない音色

KLIMAX EXAKTは無線LANを通じてPCと接続。LINN独自の音場調整ソフト、Konfigにより、壁や床の素材、ミリメートル単位で壁や天井との距離を入力、音場調整をしている。JBL時代と違うのはどんなに大音量で鳴らしても室内がびびったり、共鳴を起こしたりしないこと。Konfigの音場調整によって仮想的フラットに室内が保たれているからだ。JBLの一目惚れと異なり、LINNとはじっくり付き

合ってアップグレードしたので、落ちていた大人の交際を楽しんでいる。このシステムの鳴り方の特徴は、クラシックをやや苦手としたJBLと異なり、すべての音楽を公平に聴かせてくれる点だ。モニターの鳴り方をしながら、実はLINNだけしか出せない音色と言える。

マイ・ラジオで始まったオーディオ人生も55年になる。家一軒にも相当する投資は、実質経済は貧乏、精神的経済は豊かという結果をもたらした。振り返ると音楽ファンとしては、大変に満足な人生を送らせて頂いたと思う。音楽とオーディオには絶対に切り離せない関係があるとつくづく思う今日この頃である。